

# GMAP-BF 頻出公式チートシート【保存版】

試験当日、これ1枚を直前に眺めるためのカンペ——『GMAP-BF 攻略のセオリー』読者特典

**使い方の鉄則** ① 公式は「意味」とセットで覚える ② 最後に必ず「単位」を確認する ③ 計算前に「ざっくり」目星をつける

## 1 収益性——どれだけ効率よく稼いだか

指標	公式	意味・使う場面
ROE	当期純利益 ÷ 自己資本 × 100	株主目線の稼ぐ力。 <b>自社株買い・増配で自己資本（分母）が減ると上がる</b> （頻出ひっかけ）
ROA	当期純利益 ÷ 総資産 × 100	資産全体の効率。アセット・ライトで上がる
ROIC	税引後営業利益 ÷ 投下資本 × 100	WACCと比較し、上回れば価値創造
売上高総利益率	売上総利益 ÷ 売上高 × 100	商品そのものの儲け（粗利率）
売上高営業利益率	営業利益 ÷ 売上高 × 100	本業の儲け
売上高純利益率	当期純利益 ÷ 売上高 × 100	最終的な儲け

**デュボン分解（最重要・狙われる）** ROE = 売上高純利益率 × 総資産回転率 × 財務レバレッジ = （収益性）×（効率性）×（資本構成）。「ROEが高い理由は？」はこの3要素のどれが効いているかで答える。

## 2 安全性——倒れにくい財務体質か

指標	公式	意味・使う場面
自己資本比率	自己資本 ÷ 総資産 × 100	高いほど安全。ただし高すぎるとROEを押し下げる（トレードオフが頻出）
流動比率	流動資産 ÷ 流動負債 × 100	短期の支払い能力。200%が目安
当座比率	当座資産 ÷ 流動負債 × 100	在庫を除く即時支払い能力。100%が目安
固定比率	固定資産 ÷ 自己資本 × 100	設備を自前資金でまかなえているか。100%以下が望ましい

## 3 効率性——資産をどれだけ回転させたか

指標	公式	意味・使う場面
総資産回転率	売上高 ÷ 総資産（回）	資産がいかに売上を生むか
棚卸資産回転率	売上原価(or売上高) ÷ 棚卸資産（回）	<b>高い=在庫がよく売れ、現金が固定化していない</b> （EC・商社で頻出）
労働生産性	付加価値 ÷ 従業員数	1人あたりが生む価値

## 4 CVP分析（損益分岐点）——いくら売れば黒字か

指標	公式	意味・使う場面
限界利益	売上高 - 変動費	売上が1単位増えると増える利益のモト
限界利益率	限界利益 ÷ 売上高	↑を比率にしたもの
損益分岐点売上高	固定費 ÷ 限界利益率	<b>計算問題の最頻出</b> 。これを超えれば黒字
安全余裕率	(売上高 - 損益分岐点売上高) ÷ 売上高 × 100	どれだけ余裕があるか
損益分岐点比率	損益分岐点売上高 ÷ 売上高 × 100	低いほど安全

**固定費が増える話に注意** 自動化・設備投資で「変動費→固定費」に転換すると損益分岐点は上がるが、量がさばれば利益が加速（オペレーショナル・レバレッジ）。

## 5 ファイナンス・投資評価 —— その投資、価値を生むか

指標	公式/判断基準	意味・使う場面
現在価値 PV	将来CF ÷ (1 + r) <sup>n</sup>	将来のお金を今の価値に割り引く（貨幣の時間価値）
NPV	Σ各年CFの現在価値 - 初期投資	<b>NPV &gt; 0 なら投資GO</b> 。理論上もっとも優れる
IRR	NPV = 0 となる割引率	IRR > ハードルレート(WACC) なら投資GO
回収期間法	初期投資を回収する年数	直感的だが <b>回収後の巨額CFを無視するのが最大の欠点</b> （頻出ひっかけ）
WACC	$rD \times (1-t) \times D / (D+E) + rE \times E / (D+E)$	会社全体の調達コスト。 <b>負債コストのみ税効果(1-t)、株主資本コストには税調整しない</b>
CAPM (rE)	$R_f + \beta \times (R_m - R_f)$	$\beta$ が高い（リスク大）ほど株主の要求リターンも高い
FCF	営業CF - 投資CF	自由に使える現金。企業価値評価の源泉

WACCのD・Eは「時価」（簿価ではない）を使うのが原則。ひっかけ注意。

## 6 株式・企業価値 —— 市場はいくらと評価するか

指標	公式	意味・使う場面
EPS	当期純利益 ÷ 発行済株式数	1株当たり利益。自社株買いで上がる
BPS	純資産 ÷ 発行済株式数	1株当たり純資産（解散価値の目安）
PER	株価 ÷ EPS（倍）	利益の何倍まで買われているか＝期待の高さ
PBR	株価 ÷ BPS（倍）	純資産の何倍か。1倍割れ＝解散価値以下
配当性向	配当総額 ÷ 当期純利益 × 100	稼ぎの何%を還元したか。 <b>内部留保率 = 1 - 配当性向</b>
配当利回り	1株当たり配当 ÷ 株価 × 100	株価に対する受取率（配当性向との混同に注意）
配当割引モデル	理論株価 = $D_1 \div (r - g)$	<b>分子は"利益"でなく"配当"</b> （ $D_1 = \text{予想純利益} \times \text{配当性向}$ ）
EVA	税引後営業利益 - (投下資本 × WACC)	資本コストを超えて稼いだ"真の利益"

## 7 コストの経済性（概念問題で頻出・混同注意）

用語	中身	見分けるキーワード
規模の経済	生産"量"が大きいかほど1単位あたり固定費が下がる	ある一時点の「規模・量」
範囲の経済	複数事業で資源（設備・ブランド等）を"共有"して得	「複数事業・共通利用」
経験曲線（習熟）効果	"累積"生産量が増えるほど習熟しコスト低下	時間軸・「累積・習熟・慣れ」
期待値	$\Sigma$ （各結果の値 × その確率）	不確実な投資の平均的リターン

規模/範囲/経験曲線の選択肢入れ替えは超頻出。「量か・共有か・累積か」で即判別。

### ☑ 自分の到達度、把握できていますか？

公式を覚えても、本番形式で時間内に解けるかは別問題です。

▼ LINE で「模試」と送信

<https://lin.ee/TMA7zBL>



本特典は『GMAP-BF 攻略のセオリー』の付属資料です。役に立ったら、ぜひAmazonレビューで一言、同じ志の仲間に教えてあげてください。